

# Hello! FUJISEI

No.269

9月9日は「救急の日」です。

救急の日は、「9（きゅう）9（きゅう）」の語呂合わせから、救急医療関係者の意識を高めるとともに、救急医療や救急業務に対する国民の正しい理解と認識を深めることを目的として、昭和57年（1982年）に厚生労働省によって定められました。

また、「救急の日」を含む1週間で「救急医療週間」（平成27年は9月6日から12日まで）として、応急手当の講習会を中心とした救急に関する様々な行事が実施されています。

「平成26年版消防白書」から救急出動の状況を見てみましょう。

平成25年中における救急自動車による全国の救急出動件数は、590万9,367件（対前年比1.8%増）と、前年より10万6,912件増加し、平成16年に初めて500万件を超えてからも一貫して増加傾向を続けています。1日平均1万6,190件（前年1万5,897件）で、5.3秒に1回の割合で救急隊が出動したことになります。

救急自動車による搬送人員534万117人のうち、死亡、重症及び中等症の傷病者の割合は全体の49.8%、入院加療を必要としない軽症傷病者及びその他（医師の診断がないもの等）の割合は50.2%となっています。搬送人員の内訳をWHOの国際疾

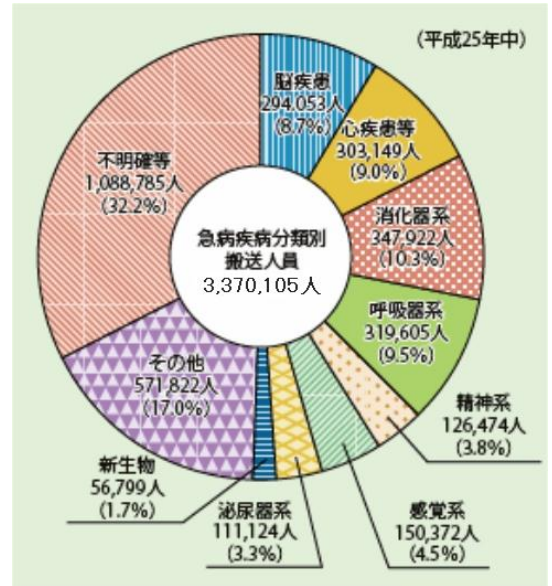
## 救急出動の状況

# 1年間に590.9万件 出動は5.3秒に1回

病分類（ICD10）の項目別にみると、脳疾患（8.7%）、心疾患等（9.0%）、消化器系（10.3%）、呼吸器系（9.5%）などとなっています。

1分、1秒が生死を分ける事態もありますが、現場到着時間（119番通報から現場に到着するまでに要した時間）別の状況は、「5分以上10分未満」が368万9,885件で最も多く、全体の62.4%、次いで「10分以上20分未満」が26.5%となっており、20分以上かかったものも1.8%あります。

### 急病疾病分類別搬送人員の状況



総務省消防庁「平成26年版消防白書」より

### 救急自動車による事故種別傷病程度別搬送人員の状況

区分	死亡	重症	中等症	軽症	その他	計
急病	61,469 (1.8)	274,226 (8.1)	1,373,906 (40.8)	1,654,840 (49.1)	5,664 (0.2)	3,370,105 (100)
交通事故	2,469 (0.5)	20,604 (3.9)	96,845 (18.3)	407,054 (76.9)	2,069 (0.4)	529,041 (100)
一般負傷	5,716 (0.8)	55,363 (7.1)	250,000 (32.2)	463,478 (59.7)	1,855 (0.2)	776,412 (100)
その他	8,507 (1.3)	123,982 (18.7)	387,997 (58.3)	142,155 (21.4)	1,918 (0.3)	664,559 (100)
計	78,161 (1.5)	474,175 (8.9)	2,108,748 (39.5)	2,667,527 (49.9)	11,506 (0.2)	5,340,117 (100)

- (注) 1. 死亡とは、初診時において死亡が確認されたものをいう。  
 2. 重症とは、傷病程度が3週間の入院加療を必要とするもの以上をいう。  
 3. 中等症とは、商業程度が重症又は軽症以外のものをいう。  
 4. 軽症とは傷病程度が入院加療を必要としないものをいう。  
 5. その他とは、医師の診断がないもの等をいう。  
 6. ( ) 内は構成比を示し、単位は%。

AIG富士生命保険株式会社

〒105-8633 東京都港区虎ノ門4-3-20  
神谷町MTビル